

Special Essay

安住の地

臨床感染医学部門
渡邊 浩

医師となって20年余が経過したが、この間転勤、留学、異動などに伴い実に14回もの引越しを経験した。結婚後の引越しだけでも10回である。医師になる前はこんなにも移動が多い職業とは思っていなかったのだが、今では引越しの達人の領域に近くなってしまっているのではないだろうかと思う。

医師になりたての頃は、色々な病院での研修（修行と言ってもよい）を経験するため半年から1年くらいで転勤していた。新しい職場にも慣れ、仕事が楽しくなった頃に転勤である。一旦引越しが決まっても荷物をまとめるのに1ヶ月くらいかかり、引っ越し後もなかなか整理がつかない、そしてまた引越しという状態であったし、実際引越しはかなりストレスだった。結婚してからも平均すると2年くらいで引越しを繰り返しており、最初は引越しが原因で夫婦喧嘩になることもしばしばであったが、クロネコヤマトの引越らくらくパックの登場以降、引越しのストレスは激減した。何しろこのパックは引越し直前まで普通に生活できるし、引越しはおまかせで、引っ越しですぐ生活できるという画期的なものであり、おかげで妻は引越しに際し全くと言ってよいほど私をあてにしなくなったのである。

7年前に子供たちも大きくなってきたこともあり、将来のめどが立ったわけではないがそろそろ落ち着きたいと思い、長崎市内に一軒家を新築した。ところが新築の契約をした直後に当時の教授にアメリカ留学の話を進められ、結局新築の家に3ヶ月住んだ後、家族を連れてアメリカに引越しした。約1年7ヶ月後にすっかり新築の香りのしなくなった我が家に戻り、こんどこそ落ち着けると思っていた。ところが人生はわからないもので、縁があって3年余住んだ後に久留米大学にお世話になることになった。私はもともと福岡県出身であり、実家（宗像市）にも近くなったので良かったのだが、実家から久留米まで通うわけにも行かず、半年間の単身赴任の後に家族を呼び、約10ヶ月間のマンション暮らしを経た後、今年1月に久留米市内に一軒家を新築した。わずか7年間の間に2回も家を建てることになるとは夢にも思わなかったが、幸い長崎の家も売却できたため決断することができた。

自分では今度こそ安住の地を得たと思い、妻にも今度こそ永住だと言ったら、「不祥事でまた引越しにしなければいけないけどね」とあっさり返されてしまいました（笑）。

